



- (2) 豊臣政権内部での主導権闘争 五大老・五奉行制  
 徳川家康・前田利家・毛利輝元・宇喜多秀家・上杉景勝  
 \*秀吉没後の幼主秀頼の下におけるへゲモニー闘争

- (3) 豊臣家と徳川家との覇権抗争 政権の主宰者をめぐる闘争  
 \*豊臣吏僚派－反家康派－豊臣政権支持派  
 豊臣武功派－親家康派－ ?

二、関ヶ原合戦の推移

(1) 会津征伐

- \*会津 120 万石の上杉景勝に謀叛の風聞 上洛弁明を拒否  
 \*慶長 5 (1600) 年 6 月 16 日 家康、大坂より会津征討に出陣 徳川家臣、井伊直政・本多忠勝の従軍

豊臣系諸大名の従軍

イ. 東海道・東山道方面の諸大名の従軍 義務的従軍 — 家康軍は豊臣政権の正規軍  
 家康は豊臣秀頼の名代

福島正則・池田輝政・田中吉政・山内一豊・堀尾忠氏・京極高知

ロ. 自発的従軍

藤堂高虎・黒田長政・細川忠興・加藤嘉明・生駒一正・寺沢広高

\*7月2日 家康、江戸入城。徳川秀忠および徳川本隊と合流。

同19日 前軍(秀忠率いる徳川軍3万)出陣 同21日 後軍(家康率いる徳川・豊臣混成軍)出陣



(2) 石田三成の挙兵

- \*7月10日頃、大谷吉継の軍勢、中山道垂井の宿に滞留 石田三成と密議 謀反の風聞  
 \*7月12日付、増田長盛書状 [永井直勝宛] 家康に石田三成らの不穏な動きを通報  
 一筆申入れ候、今度垂井において、大刑少[大谷刑部少輔]両日相煩、石治少[石田治部少輔]出陣の  
 申分、ここもと雑説申し候、なお追々申し入るべく候、恐々謹言  
 七月十二日 増田右衛門尉長盛 花押  
 永井右近大夫殿

\*7月27日付、榊原康政書状 [秋田実季宛]

「(前略) 然は上方において、石治少・大刑少、別心仕るに付て、大坂より御袋様 [淀殿] 并三人の奉行衆、北国羽肥州 [前田利長] など、早々内府上洛致され尤もの由、申し来り候間、右の別心仕る兩人を成敗せんがため、今度この方え御下り候上方衆を同道致し、上洛され申候、(後略)」

\*7月17日「内府ちがひの条々」 大坂城の豊臣奉行衆も同調 家康討伐の弾劾状  
豊臣奉行一前田玄以・増田長盛・長束正家一の名による弾劾状  
「秀頼様への忠節」 豊臣政権の名による公戦 家康は

※ 西軍蹶起の二段階性 1. 石田三成と大谷吉継ら一部の人々 豊臣家は無関与、家康に鎮定要請  
2. 豊臣家が三成方西軍に公儀の正当性 毛利、宇喜多ら多数の武将が参加

[西軍蹶起の二段階]

1. 石田三成と大谷吉継ら一部の人々の行動 豊臣家は無関与、家康に鎮定要請  
2. 豊臣家が三成方西軍に公儀の正当性 毛利、宇喜多ら多数の武将が参加

### 豊臣公儀

#### 淀殿・大坂三奉行

(増田長盛・長束正家・前田玄以・[石田三成・浅野長政])

#### 徳川家康・豊臣系武将

[福島正則・池田輝政・黒田長政・

藤堂高虎・細川忠興 etc.]

#### 石田三成・大谷吉継

#### 上杉景勝

毛利輝元・宇喜田秀家・島津義弘・小早川秀秋・小西行長 etc.

[小山の評定] 7月25日 下野国小山の評定

- \*西軍挙兵の報を受けて、家康、従軍諸将に向背、作戦を問う
- \*福島正則ら豊臣系諸大名が家康に与同 黒田長政の工作
- \*従軍の豊臣諸将、江戸より東海道を反転西上 尾張清洲城に集結

[事態急変]

\*7月29日付、家康書状 [黒田長政・田中吉政宛]

「大坂奉行衆別心の由、申し来り候間、重て相談せしむべしと存候所、御上り故、その儀無く候」

\*「小山の評定」の議論前提の崩壊 — 家康に同盟の誓約は無効か、有効か?!

(3) 家康方東軍の軍事的展開

8月1日 徳川軍の先鋒として井伊直政を尾張清洲へ派遣。本多忠勝も軍目付として同道。

- \* 家康、江戸城にとどまって動かず。 豊臣武将への懸念
- \* 「小山の評定」の議論前提の崩壊 同盟豊臣武将たちの向背は混迷
- \* 村越茂助を清洲城へ派遣

[岐阜合戦]

8月21日 清洲城の福島ら豊臣武将、岐阜城(織田秀信)へ進撃

同23日 岐阜城攻略 豊臣武将ら長良・揖斐川を越えて赤坂に着陣

(4) 徳川秀忠隊の軍事的展開

8月24日 徳川秀忠の率いる徳川軍3万8千、宇都宮を進発。信州方面の平定と西上  
「信州真田表仕置申し付くべきため、去廿四日、彼地（宇都宮）罷り立ち、今廿八日、上州松井田に至り、着陣せしめ候、近日彼地へ押し詰め、手置等申し付け、隙明次第、上洛を遂ぐべき覚悟候」（黒田長政宛秀忠書状）

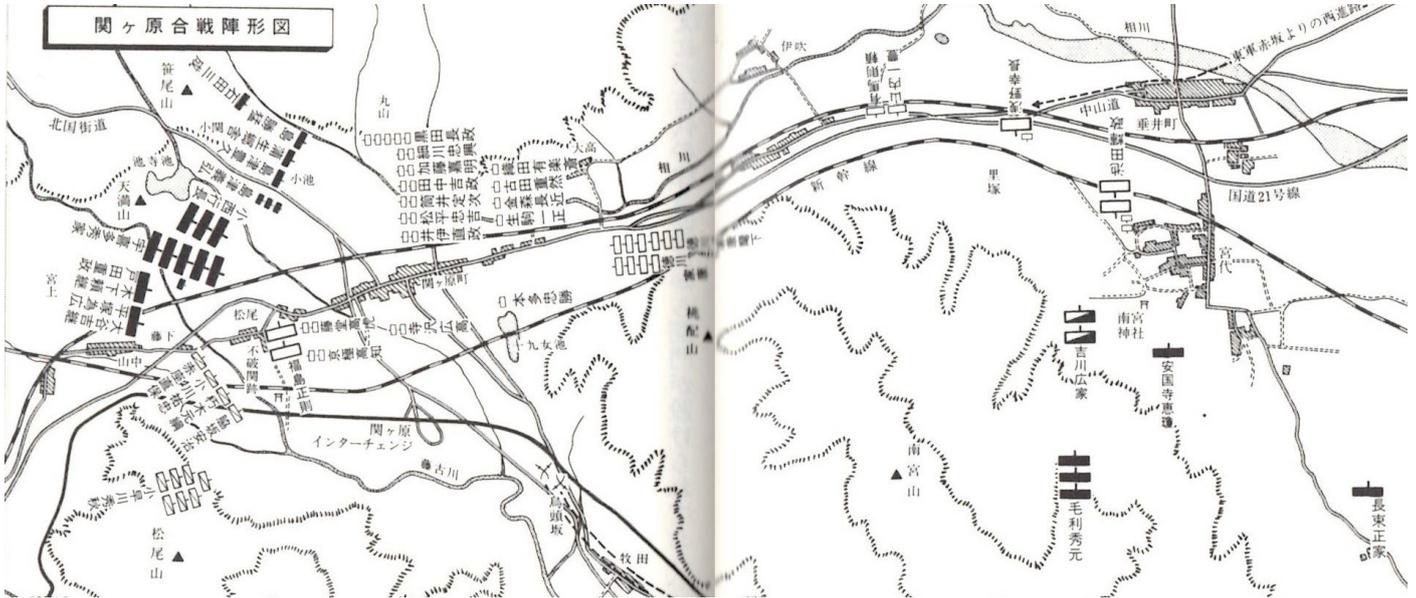
- 9月2日、徳川秀忠隊が小諸到着
- 9月5日、6日 徳川秀忠隊の上田城攻撃 真田昌幸の応戦
- 9月9日、徳川秀忠隊の小諸帰陣 家康の使者到着
- 9月13日、秀忠隊、下諏訪到着 真田勢の追撃を警戒して迂回路
- 9月14日、秀忠隊、木曾路に入り昼夜兼行の急速進軍。 赤坂方面からの情報

(5) 徳川家康の動向とその部隊の構成

9月1日 家康、兵3万余を率いて江戸城を出陣（本来の出陣日は9月3日）。  
同14日、赤坂着陣 大垣城の石田三成ら西軍と対峙

9月15日 関ヶ原の合戦 徳川主力軍の不在  
井伊直政・松平忠吉、本多忠勝

「我ら家中の人持分の内、少も大身なる者をは、おおかた秀忠に附て木曾路へ差越し、我ら事は旗本の侍共ばかりを召連れ」（家康の言）  
「よき者どもは美濃守[本多忠政]、秀忠公の御供に参候」（本多忠勝の言）



\* 東軍の前線部隊4万人強のうち徳川軍は6千人余 東軍の主力は豊臣系武将

三、関ヶ原合戦後の全国的領地配置

- \* 慶長5 (1600)年の関ヶ原合戦がその後の徳川幕藩体制にあたえた影響
- \* 関ヶ原合戦における家康方東軍の構成 徳川主力軍の欠落
- \* 豊臣系諸大名 (ex. 福島正則・黒田長政) らの協力による家康の勝利

[戦後処理と論功行賞]

- \* 豊臣系諸大名の躍進、国持大名への成長。西軍よりの没収高632万石の80%強で

ある520万石余が豊臣大名に配分。日本のうち20ヶ国以上、三分一の地域。

\* 西国は豊臣系勢力の支配地域。大坂城の豊臣秀頼。

\* 家康、豊臣家の追及をさける。大坂城で和睦の盃事 「太閤様御置目の如く」

\* 徳川の領国は陸奥岩城平の鳥居10万石から彦根の井伊18万石まで。

京都以西には徳川系大名ゼロ 20ヶ国ほど、日本全体の三分一の地域

天下三分の形勢 三分の一徳川系領国 三分の一豊臣系領国 三分の一旧族外様系領国

むすびに

\* 関ヶ原合戦は徳川幕藩体制の基点、出発点

\* 幕府絶対権力とは、ほど遠い政治体制 自治分権型の国家体制

\* 京都を境に西国は外様大名が盤踞 豊臣系外様と旧族系外様 西国問題

西国問題の克服が徳川幕府の最大の政治課題

徳川幕藩体制に生起する主要な政治課題は、この西国問題をめぐる葛藤と相克の中から理解

表4 中山道の徳川秀忠軍の徳川武将(単位 石高=万石)

部署	人名	領地・石高	戦後所領・石高	備考	
先手	榊原康政	上野館林 10.0	同 左		
老臣	大久保忠隣	相模小田原 6.5	同 左		
	本多正信	上野八幡 1.0	同 左		
供奉	酒井家次	下総碓井 3.0	上野高崎 5.0	本多忠勝の嫡子	
	本多忠政	—	—		
	本多康重	上野白井 2.0	三河岡崎 5.0		
	牧野康成	上野大胡 2.0	同 左		
	酒井重忠	武蔵川越 1.0	上野概橋 3.3		
	酒井忠世	武蔵川越 0.5	上野那波 1.0		酒井重忠嫡子
	酒井忠利	武蔵川越 0.3	駿河田中 1.0		酒井重忠弟
	高力忠房	武蔵岩槻 2.0	同 左		
	土岐定義	下総守屋 1.0	同 左		
	小笠原信之	武蔵本庄 1.0	同 左		信濃妻児城で戦闘
	諏訪頼水	上野総社河 1.2	信濃諏訪 2.3		上野高崎城守衛
	安部信盛	武蔵榛沢 0.5	同 左		慶安1摂津国内 1.9
	戸田一西	武蔵鯉井 0.5	近江大津 3.0		
	高木正次	相模海老名 0.5	同 左 0.7		
	青山忠成	相模高座 0.5	同 左 1.5		子幸成・忠俊も同道
	内藤清成	相模当麻 0.5	安房勝山 2.0		
土屋忠直	相模彌宜内 0.3	上総久留里 2.0			
御使番	土井利勝	上総嵐穴 0.1	下総小美川 1.0		
後備	奥平家昌	—	下野宇都宮10.0	奥平信昌嫡子	
	菅沼忠政	上野吉井 2.0	美濃加納 10.0	奥平信昌三男	

表5 関ヶ原合戦における徳川将士(単位 石高=万石)

部署	人名	領地・石高	戦後所領・石高	備考
先手	松平忠吉	武蔵忍 10.0	尾張清洲 52.0	
	井伊直政	上野箕輪 12.0	近江彦根 18.0	
軍監	本多忠勝	上総大多喜10.0	伊勢桑名 10.0	本多隊主力は中山道
大番頭	松平重勝	不明	不明	慶長17越後三條 2.0
	水野重央	武蔵 0.7	同 左	慶長13常陸久慈 1.0
	水野分長	—	尾張小河 0.9	慶長11三河新城 1.0
百人組頭	成瀬正成	下総栗原 0.4	甲斐国内 2.0	
鉄砲頭	安藤直次	武蔵穴師 0.1	同 左	慶長12遠江国内 1.3
持筒頭	渡辺守綱	武蔵松山 0.3	同 左 0.4	慶長15尾張国内 1.4
御馬前	本多正純	—	—	のち下野小山 3.2
	西郷忠員	下総生実 0.2	同 左 0.5	元和6に1.0に増
	牧野信成	武蔵石戸 0.5	同 左	寛永10に1.1に増
	永井直勝	上総市原 0.5	同 左 0.7	元和3常陸笠間 3.2
旗本備	阿部正次	武蔵鳩谷 0.5	同 左 1.0	書院番頭
	松平(奥平)忠明	上野小幡 0.7	三河作手 1.7	
	本多康俊	下総小籬 0.5	三河西尾 2.0	一説に本隊の後陣
	西尾吉次	武蔵原市 0.5	同 左 1.2	
	本多正重	—	近江坂田 0.1	元和2下総相馬 1.0
	奥平信昌	上野小幡 3.0	美濃加納 10.0	
後備	松平(大須賀)忠政	上総久留里 3.0	遠江横須賀 6.0	家臣は館林城守備
	本多成重	下総井野 0.3	同 左 0.5	慶長18越前丸岡 4.0
	戸田尊次	伊豆下田 0.5	三河田原 1.0	嫡子重能も同道
	南宮山押え	本多忠朝	(ナシ)	上総大多喜 5.0
大垣城守手	水野勝成	三河刈谷 3.0	同 左	曾根の要害守備
	松平(戸田)康長	武蔵深谷 1.0	上野白井 2.0	同上